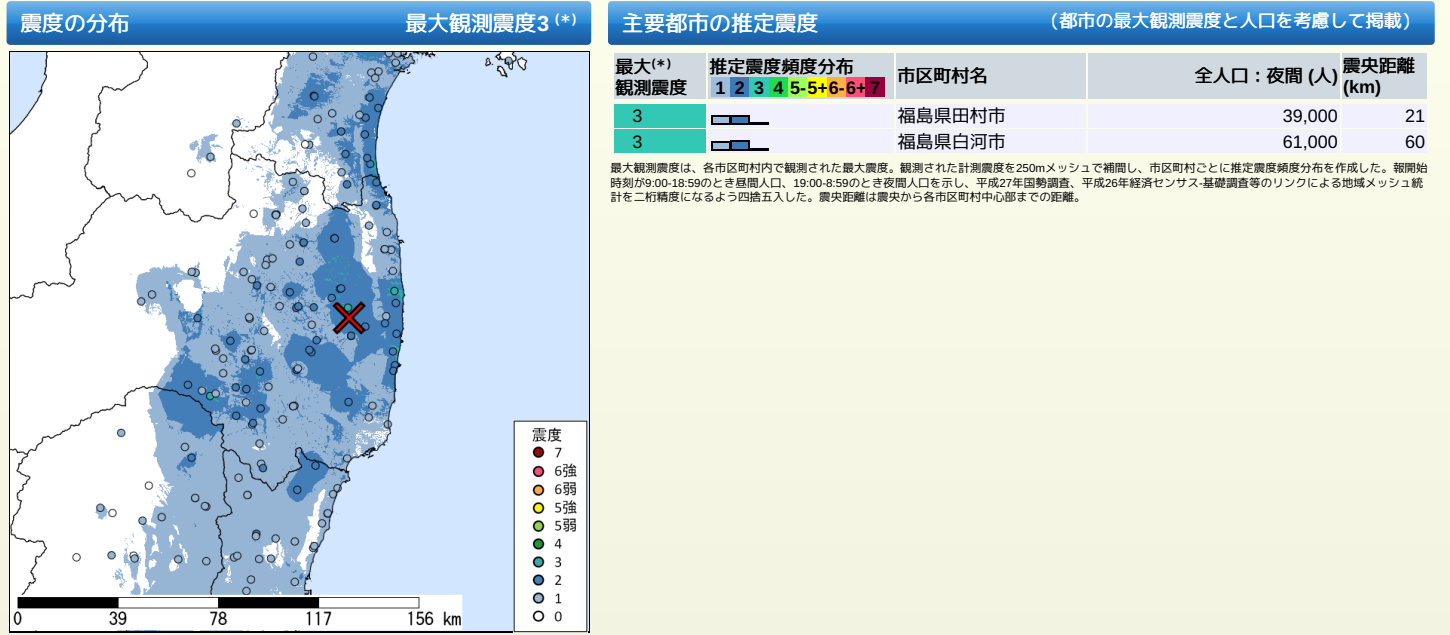
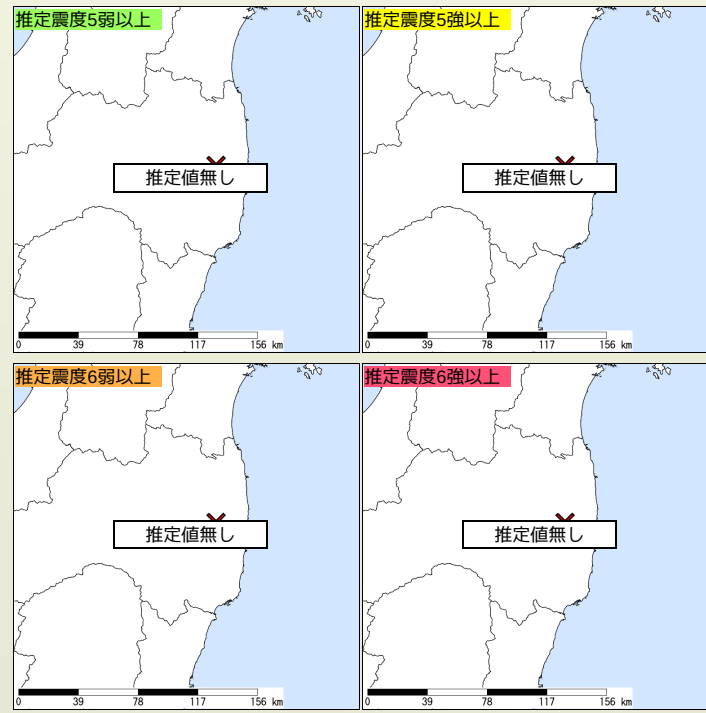


M 4.2, 震源地:福島県中通り, 深さ約90km, 2026/05/06 04:35頃発生 (気象庁発表)



解析開始時点(2026/05/06 04:45:33)で収集されている防災科研K-NET, KIK-net, 気象庁, 地方公共団体震度計の計測震度データを利用。(*) 気象庁発表の情報と一致しない場合がある。一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。他の図表も同様。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



震度5弱以上の震度遭遇人口の推定値が無い場合、震度遭遇人口は表示されません。

補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

この地域で起こった過去の主な被害地震

発生日	地震名	M	被害
1938	茨城県沖	7.0	小名浜付近の沿岸と福島・郡山・白川・若松付近に被害があった。福島県で家屋の被害250など、茨城県磯原で土蔵倒壊1、小津波があった。
1938	福島県沖(福島県沖地震)	7.5	この後年未だにM7前後の地震が多発した。福島県下で死1, 住家全壊4, 非住家全壊16, 小名浜・船川などで約1mの津波。
1943	福島県会津地方(田島地震)	6.2	崖崩れや壁の剥落など小被害があった。
1956	宮城県南部	6.0	白石付近で死1, 非住家倒壊3, その他小被害があった。
2003	宮城県北部	6.4	陸域の逆断層型地殻内地震。同日に大きな前震(M5.6)と余震(M5.5)も起って連続地震と呼ばれた。M6級だが浅く、震源域に局所的に大きな被害が出た。傷677, 住家全壊1276, 半壊3809。3ヶ所で震度6強を記録した。
2011	三陸沖(東北地方太平洋沖地震)	9.0	日本海溝沿いの沈み込み帯の大部分、三陸沖中部から茨城県沖までのプレート境界を震源域とする逆断層型超巨大地震(深さ24km)。3月9日にM7.3(Mw7.4)の前震、震源域内や付近の余震・誘発地震はM7.0以上が6回、M6.0以上が97回、死19418, 不明2592, 傷6220, 住家全壊121809, 半壊278496(余震・誘発地震を一部含む); 2016年3月現在)。死者の90%以上が水死で、原発事故を含む被害の多くは巨大津波(現地調査によれば約40m)によるもの。最大震度7(宮城県東港市), 6強が宮城県13市町村、福島県11市町、茨城県8市、栃木県5市町だが、揺れによる被害は津波に比べて大きくなかった。この領域では未知の規模で、869年貞観の三陸沖地震と1896年三陸沖地震級の津波地震が合わせて襲来したと考えられる。
2011	福島県浜通り	7.0	東北地方太平洋沖地震の周辺誘発地震で正断層型地殻内地震(深さ6km)。井戸沢断層の近傍で地表地震断層が現れた。死4, 傷10(2016年3月現在)。最大震度は6弱(福島県3市町村, 茨城県1市)。

出典: 国立天文台「理科年表 平成29年」, 丸善出版(2016)。一部表現を削愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2024年地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布 再現期間50000年相当の計測震度分布

